【授業科目】急性看護学特論Ⅲ（クリティカルケア治療管理に関する科目）

Advanced Acute Nursing Ⅲ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田 和枝、内田 恭寛、山下 良、中林 規容 野々垣 幹雄、蜂須賀 丈博、河端 賢司	１年次 後　期	選　択	２	３０	講　義	巻末 掲載

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	重症・集中治療を受ける患者の病態生理学的変化に注目しながら、安全な治療管理について実践的な能力を修得するように、看護師、医師、臨床工学士の協働性と専門分野の独自性について検討しながら講義を進める。後半は、クリティカルケアを必要としている患者の治療管理とケアリングの統合についての実際的な学修をする。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。或は全体の総評コメントを授業内で提示・プリント配布により公開する。実務家教員が進める
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・ポリシー②、③、④の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①重症・集中治療が必要な患者には医学的介入が重要となる。そのため、科学的根拠に基づいた患者・家族中心のキュアとケアが治療環境の中で総合的に管理するための知識を表現することができる。 ②高度看護実践者として責務を果たすためには、重症集中治療室における安全管理、ＭＥ機器に関する基本的な知識、治療に多職種が関与することに対する医療事故防止システム、身体侵襲が伴う創傷管理、呼吸管理、血液・輸液療法に関する知識や技術を修得することができる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	教科書は授業前までに読み、知識を整理しておく（各 60 分）。 教科書、配布資料以外にも文献検索を行い、プレゼンテーションに臨む（各 120 分）。 臨床での看護実践を授業内容に生かし、学びを深める（各 60 分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回)（１単位１５回科目の場合：予習+復習 1時間／１回)（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	＜重症・集中看護ケアの基盤となるＥＢＮ＞ 第 1 回 重症・集中看護ケアの基盤となるＥＢＮ：病態生理学を学ぶ重要性と必要性	吉田
	＜生命危機に対する治療管理＞ 第 2 回 生命危機に対する治療管理： 心停止と心肺蘇生法 第 3 回 生命危機に対する治療管理： 呼吸・循環管理 第 4 回 生命危機に対する治療管理： 栄養代謝・水分・電解質バランス管理 第 5 回 生命危機に対する治療管理： 緊急検査と緊急手術のマネージメント	内田 山下 野々垣 野々垣
	＜急性疼痛管理・鎮痛/鎮静剤の管理・創傷管理＞ 第 6 回 急性疼痛管理・急性疼痛のメカニズムと鎮痛/鎮静マネージメント 第 7 回 創傷管理：創傷の治癒過程と治癒を妨げる要因 第 8 回 熱傷管理：熱傷の治癒過程と治癒を妨げる要因・治療管理（高度救命救急センター見学・研修）	蜂須賀 吉田 吉田
	＜集中治療室で活用するＭＥ機器の管理＞ 第 9 回 集中治療室で活用するＭＥ機器の管理：ＭＥ機器の基礎、種類と動作原理、管理方法 第 10 回 ＭＥ機器使用中の管理：使用前の点検・使用中の管理・使用後の管理 第 11 回 危機管理・事故防止のためのマネージメント 第 12 回 人工呼吸器の管理と事故防止のためのマネージメント	河端 河端 吉田 野々垣
	＜病態の特徴と治療管理：事例検討を踏まえながら治療管理に関わる多職種の協働性についても討議を行う＞ 第 13 回 疾患に特徴的な治療管理： 例：ＣＯＰＤの急性増悪に対応する治療管理とＥＢＭ/ＥＢＮ	山下
	第 14 回 疾患に特徴的な治療管理： 例：重症心不全に対応する治療管理とＥＢＭ/ＥＢＮ	内田
	第 15 回 疾患に特徴的な治療管理： 例：多臓器不全患者に対応する治療管理とＥＢＭ/ＥＢＮ 例：頭蓋内亢進患者の治療管理とＥＢＮ	中林

評価方法 評価基準	授業参加状況 10%、プレゼンテーション 50%（ケーススタデイ)、課題レポート 40%		
教科書	必要時提示	参考書等	道又元裕：クリティカルケア実践の根拠、照林社、2012 適宜提示